



### 「学級事務」についての研究状況……?

- ▶ 教職論や教育事務の分野において学級事務が研究対象となったことは相対的に少ない
    - ▶ ひとつの指標として、CiNiiでヒットする文献数は……
      - 「学校事務」をタイトルに含むもの: **3,142件**
      - 「学級事務」をタイトルに含むもの: **3件**
  - (2021.11.18時点)
  - ▶ 当学会年報でもその大半が学校事務職員の職務に焦点化したものであり、教員に光が当たっていても「学級事務」については管見の限りほぼ研究されていない
- ⇒学級事務の位置づけや意義といった基本的な問題に関心が払われてきたとは言にくい現状

### 本発表について

- 【課題】
  - ▶ **学級事務の位置づけと意義・課題に関する基礎的検討**
- 【方法】
  - ▶ 文献調査
  - ▶ 学級事務に関する記述が従来学級経営論を中心になされてきたことを踏まえ、**学級経営と学級事務との関係を手掛かりとして考察**
- 【構成】
  1. 「学級事務」の定義と内容を確認する
  2. 「学級経営」に関する三つの立場の主張を検討する
  3. 三つの立場から「学級事務」の意義と課題を考察する

## 1. 「学級事務」とは何か

### 「学級事務」に関する記述

- ▶ 学級事務に関する記述や研究が試みられたのは主に学級経営論において
  - ▶ 学級経営論は、戦後教育において大きく分けて三つの理論的立場を擁することに
- ※三つの立場が現れた時期(1960s-70s)
- ▶ 教科指導と生活指導との関係、教育課程における特別活動の位置づけなどが問われた
  - ▶ **学級経営に関する事典や講座本**が刊行されており、その中で学級事務に関するまとまった記述がなされている
- ※近年では学級経営に関する文献でも学級事務の在り方に触れられることは少ない

### 記述例① 『学級経営事典 小学校編』

(学級経営事典編集委員会編、第一法規、1963年)

- ◆佐々木渡「学級事務」
- ▶ 学級事務を二分
  1. 指導に直接関係する「**指導事務活動**」
    - =「指導活動そのものではないが、指導活動と不可分に結びついて、これをささえている活動」
    - ▶ 「指導計画の具体化に関する事務」「教科用図書の採択検定に関する事務」「指導後の整理に関する事務」「その他の指導に関連した事務」
  2. それ以外の「**事務活動**」
    - =「指導活動と直接に結びついてはいないが、学級担任教師として要請される仕事」
    - ▶ 「教室環境の整備管理に関する事務」「学級に關係のある庶務事務」「学級PTAに関する事務」
- ▶ 学級事務処理の合理化
  - =「業務分析」(事務内容の洗い出し) + 「標準化」(処理方式の定型化)
  - ※のちに「現代化」とも(佐々木、1972)

### 記述例② 『小学校学級経営事典』

(飯田芳郎・奥田真丈・長島貞夫・宮田丈夫編、第一法規、1971年)

- ◆杉山正一「学級事務の性格と機能」
- ▶ 「学級経営ということとを離れて、学級事務の性格とか機能ということとは考えられない」
- ▶ 「学級事務ということばもあいまいなのである。いずれにしても、事務とは『組織体の事業を助けるための補助的業務の総体』なのである」
- ▶ 「**学級事務は、なくてはならないものであるが、学級事務そのものが目的ではない**」
- ▶ 「学級における教育活動の直接業務、たとえば、授業とか指導ということとを促進する**間接業務のすべて**を学級事務と考えてよい」
  - ▶ 先行研究を踏まえ、学級事務の内容を「表簿類の記入と整理」「学級備品の管理と保管」「報告、統計の処理」「指導に関連する事務的仕事」「金銭の出納」に整理
- ▶ 「**雑務**」意識と多忙感・負担感
  - ▶ 「学級事務は、どうかすると、雑務という受け止め方をされているのである」
  - ▶ 「多忙感とか負担感という根底に、雑務意識があるということである」

### 記述例③ 『現代学級経営 1』

(宮坂哲文編、明治図書、1961年)  
◆佐古田好一「学級事務の問題」

1. **学校事務でもあり学級事務でもある主な事柄**
  - ▶ 「教務に關係したもの」「学籍、統計に關係したもの」「庶務、經理等に關係したもの」「施設、備品に關係したもの」「保険[ママ]衛生に關係したもの」「学習指導に關係したもの」
2. **学級独自の事務**
  - ▶ 学級費や材料費の徴集[ママ]と会計事務、共同購入、学級の諸記録、家庭との連絡事務その他
  - ▶ 学級事務の在り方について注目すべき記述が多い
    - ▶ 「教育内容がしたいに複雑広範囲にひろがり、方法もまた多面的になるにつれて、施設・教材教具にも多大の経費や物資が投入されるようになるし、その運営も複雑化してくる」
    - ▶ 「PTA会費や給食費の徴集[ママ]事務は、子どもの生長と直接の關係がない仕事である。**(集金を通じて子どもや子どもの家庭を知ったり、生活指導や学習指導に役立てるといふ面があるにしても)**
    - ▶ 「学級事務には、**子どもの参加も必要である**。子どもを道具にして使役するのではない。学年段階に応じて経験を豊かにし、その活動を通して、学級協同社会の一員としての自覚と実践力を高めるのである」
    - ▶ 「事務に不得手なことをかえって得意とする教師もあるが、それは事務を指導とせりはなして形式的なものと考えるからではないか」
    - ▶ 「事務の内容に応じて、要点を押さえた処理法を身につけることも、大いに能率に關係してくる。そのためには、ときどき共同研究をして、おたがいの創意くふうをわかち合いたい」

### 記述例④ 『学級経営の実践』

(宮田丈夫編、明治図書、1967年)  
◆大砂信一「学級事務の進め方」

- ▶ 「学級事務」の広狭二つの意味
  - ▶ 【広義】「一つの学級を担任する教師が、その学級の教育成果をあげるために行なう**教育活動や、これに関連する学級の仕事のすべて**」
  - ▶ 【狭義】「教育の本来の仕事である実際の教育活動、つまり**現実の指導活動を除いた仕事**」
    - ▶ 「いわゆる普通という事務で、文書的なものを作成したり処理したりする仕事、経理的な仕事などを指すといつてよい」
- ▶ 「学級経営」の六つの面
  - ▶ 「指導活動」「児童管理」「施設管理」「学籍事務」「經理事務」「保護者関係事務」
  - ▶ 「前項に挙げた学級経営の内容を『学級事務』という立場から見ると、**広い意味からいえばその全部が学級事務といえる**し、狭い意味からみても、それぞれの事項についていわゆる事務といわれるものが伴っている。またある事項は、それ自身がいわゆる事務と呼ばれるものもある」

### 記述例⑤ 『中学校学級経営事典』

(教育技術研究所編、小学館、1975年)

◆矢ヶ崎重夫「学級担任教師と学級事務」

- ▶ 「学級事務とは、一般的に学級経営に関して学級担任教師のなすべき**指導活動以外の仕事**をさしているといつてよい」
  - ※「学校における事務には、指導とせりはなすことが困難なものも多く、そのため前近代的などとの批判もうけている」
- 1. **指導事務**
  - ▶ 「学級経営案の作成に関する事務」「教科、道徳、特別活動等の指導計画作成に関する事務」「週案・指導案の作成に関する事務」「教具・教材等の準備に関する事務」「学習の評価に関する事務」「生活・行動等の観察記録整理に関する事務」「家庭環境・生育歴等の調査に関する事務」「教室環境の整備に関する事務」「指導要録、通信簿、出席簿等表簿作成、整理、保管に関する事務」「その他」
- 2. **一般事務**
  - ▶ 「学校運営に関する事務を一部分担するもの」「集金に関する事務」

### 記述例⑥ 『現代学級経営の理論と実際』

(田原迫龍磨編著、第一法規、1995年)

◆岡崎典典「学級事務の諸問題」

- ▶ 「学級担任のおこなう学級の仕事は、学級経営活動と呼ばれている。学級経営の中心となるのは、教育指導の活動である。**その教育指導を支えるものを『学級事務』という**」
- ▶ 学級事務の内容
  - ▶ 「指導事務 学習指導に直接関わる事務」「公簿の作成の事務 学習の評価および成長の記録に関わる事務」「備品等の管理事務 教室内の備品の管理および教科備品に関わる事務」「金銭の出納事務 学級での集金および支出に関わる事務」「家庭・地域などへの連絡事務 連絡等に関わる事務」「報告の事務 教育委員会および関連機関への報告に関わる事務」
- ▶ 「**学校事務=雑務**」親の私拭について
  - ▶ 「学級担任が事務処理に追われると、『指導がおろそかになる』とか、『雑務が多すぎる』などの声がある。この言葉の中には、**学級事務は、教師の本務以外の余分な仕事であるとか、事務職員がおこなうもの**だといつて、**学校内の事務に対する偏見や、誤った考え**が含まれていることが多い」
  - ▶ 「学校事務は、学校教育目標達成のための多様な教育活動を支え、促進するための重要な仕事を指し、教育指導活動に不可欠な活動である。したがって、**学校事務の基礎となる学級事務は、学級経営を支え、推進するための不可欠の活動である**といえる」

### いくつかの記述から

- ▶ **学級事務の問題は多岐にわたるもの**
  - ▶ 学校事務・校務分掌との関係、家庭との連携、通知表と指導要録、児童生徒の参加など
  - ▶ 指導活動に關係するものとしてでないもの(指導的業務と管理的業務:松本・種市、1972)とに**二分する見方**が多く採用されている
    - ※いずれにしても、学級事務は多かれ少なかれ教師の指導的活動を支えるもの=「条件整備」の活動として捉えられてきた
  - ▶ 「雑務」感の問題や、子ども参加、事務を通じた子ども理解の促進という意義などの記述も散発的ながら見られた
  - ※以降は、学級経営論の主眼がいわゆる「学級崩壊」への対処方針に移ってきたこともあり、学級事務そのものに関して根本的に異なる見方や枠組みが明確に提示されてきたわけではない
- ▶ ⇒ 一段階視野を広げて、学級経営論における**三つの立場を参照することにより、内在する論点を検討する**

## 2. 「学級経営」に対する 三つの捉え方

### 学級経営の三つの立場

▶ 下村(1982)の整理

学級経営＝学級教育論	教科指導でも学級経営が行われるとして、学級経営の問題領域に教科指導と生活指導をそれぞれ独自の形で含み込もうとする 宮坂哲文ら
学級経営・機能論	教科指導と学級経営を明確に区別し、学級経営を教科指導のための条件整備と捉える 宮田丈夫ら
学級経営＝経営主体活動論	教科指導と学級経営を区別しつつ、独自の役割や領域を学級経営に担わせようとする 細谷俊夫ら

### 学級経営＝学級教育論

▶ 宮坂哲文『学級経営入門』(明治図書、1964年)

- ▶ 『山びこ学校』に連なる日本の学級経営の実践記録は「みな教科指導の記録であるとともに生活指導の記録」であり、「**学級経営はこのように本来、教科指導と生活指導とを統一的に展開させる実践的基盤をなすものにほかならない**」(p.23)
- ▶ 学級経営を「授業とは別のもの」として捉える見方を批判
  - ▶ 「『教科経営』ということばがすでにある程度のことを示唆しているように、**授業という行為はそれじたい一つの経営でなければならない**。授業が教授＝学習過程ということばでよばれ、そこに教師の指導性と学習者の主体性という二つの基本的契機がよみこまれていることなかにも、**授業というものの経営的本質が示唆されている**ということが出来る」(pp.28-29)

⇒授業における学級経営を念頭に置くもの

### 学級経営＝学級教育論

▶ 宮坂哲文『学級経営入門』(明治図書、1964年)

- ▶ 宮坂のいう「**教科経営**」
  - ▶ 学習形態の効果的な切り替えや学習集団の形成などによって授業に「学習者の主体性」を保障しようとする取り組み  
(※授業における学級経営に対する理解が不十分であると教師中心の一斉授業に陥るおそれがある)
- ▶ 「**授業をとおしての学級づくり**」
  - ▶ 「ひとりひとりの子どもへの教師の理解」(学習のレディネス、考え方や感じ方の個性、家庭環境や健康状態などの把握)
  - ▶ 「より有効な学習のための解放された集団的ないし社会的場面の用意」(学級集団における相互作用を促す教師の発問、教師の指導性を通じた子どもたちの組織化、学級づくりを念頭に置いた個別指導)

### 学級経営＝学級教育論

▶ 宮坂哲文『学級経営入門』(明治図書、1964年)

- ▶ 学級経営の目的的・計画的性質
  - ▶ 「**学級経営は事務的な雑務ではなく、また突発事件の善後処置でもない。それは、基本的には(学級集団づくり)でなければならない**」(p.38)
  - ▶ 「生活綴り的な手法による『なにかまづくり』『学級づくり』の実践の広がり、学級経営という古いことばに新鮮な魅力を盛った」(p.20)

⇒宮坂にとつての学級経営は**(学級づくり)そのもの**

- ▶ 教科指導と生活指導の両方を射程に入れる
- ▶ 学級経営は教科指導と生活指導の総体

### 学級経営・機能論

▶ 宮田丈夫『新訂学級経営』(金子書房、1970年)

- ▶ 学級経営は**教科指導のための条件整備**という機能を持った経営活動(機能概念としての学級経営:下村、1982)
- ▶ 米国における教師の職務分析研究に基づき、教師の仕事は「教授活動」が中心であると認識されてきたが、その活動の失敗と反省を通じて「経営活動」の必要性が認識されるようになったとする  
＝教授を補い、それに貢献するという学級経営概念の根拠
- ▶ 「経営活動にしても、それは教授活動本来の領域の内容にも触れるのであるが、その**取り上げ方**が教授活動の場合と異なる」(p.79)
  - ▶ 例)児童生徒の学習成果に評点を付け、それを記録・報告すること自体は教授活動ではないが、それと密接に結びついた活動である

### 学級経営・機能論

▶ 宮田丈夫『新訂学級経営』(金子書房、1970年)

- ▶ **教授活動そのものとは明確に区別される学級経営概念**
- ▶ 学級経営はあくまでも教授活動を補助するものであって、それ自体が教授活動となるわけではない
  - ▶ 「経営活動は一応教授活動とは対比される。学校の場合にせよ、また、学級の場合にせよ、経営活動は教育内容の全域にわたって、その内容を通して目的や目標を実現する方法の効果をあげるために行なわれる外面的な活動なのである。別な言い方をすれば、**経営活動は教授の効果をあげるための条件整備という性格をもつものであり、また、教授の方法をなめらかにする潤滑油のはたらきをするものとみてよい**」(pp.79-80)
- ▶ ただし、教授活動とは完全に切り離されているわけではない(その効果を上げる「潤滑油」であるため:下村、1982)

### 学級経営・機能論

- 宮田丈夫『新訂学級経営』(金子書房、1970年)
  - 特徴① 学級経営は学級教育のすべての領域にわたる
  - 特徴② 学級経営は学級教育の外側からその効果を上げるために行われる
- ⇒宮坂とは対照的に、学級経営をあくまでも教授のための「条件整備」の営みとして規定するもの
- 含まれる経営活動の内容:
  - 「学級環境経営」
  - 「学級の学習風土(教科経営の問題)」
  - 「児童活動と学級経営」
  - 「学級教師の諸関係」

### 学級経営＝経営主体活動論

- 細谷俊夫『教育方法 第四版』(岩波書店、1991年)
  - 学級経営の**独立性**を最も高めたもの
    - 「学級における教師の活動」は「教授を主体とする活動」と「経営を主体とする活動」に分けることができるのであり、「教師の活動から教授を主体とする活動を除いたすべての活動が学級経営の分野に含まれることになるのであって、その範囲はきわめて広く、学級に関するあらゆる問題がこれに関連をもってくる」(p.90)
    - ただし、**学級経営を教科指導のための条件整備にとどめることには否定的**であり、**学級経営は市民性を育む領域として、教科指導の領域と対応して重要な機能を果たすものであるとする**
- ⇒学級経営を独立した「領域」として捉えたもの(下村、1982)

### 学級経営＝経営主体活動論

- 細谷俊夫『教育方法 第四版』(岩波書店、1991年)
  - 「最近の学級経営において重視される問題」
    - 科学的成績考査の問題
    - 学級編成ないし学級内の分団編成の問題
      - 宮田や宮坂と同じく細谷も、教育の目的に応じた学級や分団の編成が、学級経営上重要な問題と見なす
      - これは従来「教授能率」を高めるために行われてきたが、「**学校を一つの共同体として、生徒の社会人としての資質を培養することが、個人の知的能力の伸長を図ることよりも、はるかに重要な意味をもつべきであるという教育の新しい目的観**」が持たれるようになってきたため、異質性を尊重する学級編成・分団編成への注目が集まっている(p.97)
      - ⇒細谷は学級経営を教授面の問題に解消する考えに否定的
    - 常規的活動の問題(行動の習慣化)
      - ⇒**社会的・協同的訓育の手段としての学級経営**
    - 生活指導の問題
    - 特別活動の問題

### 学級経営＝経営主体活動論

- 細谷俊夫『教育方法 第四版』(岩波書店、1991年)
  - 特別活動に学級経営の独自の役割を見出す
    - 「その内容としては学級会活動、生徒(児童)会、クラブ活動などが中心になっている。そのうちでも学級会活動はとくに重視されるものであるが、この場合には教室は単なる教授のための場ではなくて、市民性育成のための実験室となり、教師は教科の指導者ではなくて、生徒の指導者となる。[中略]いまや**学級経営は教授に対して隷属的地位を守ることが許されなくなり、それ自身として重要な機能を果たさねばならなくなってきたといえよう**」(p.101)
    - ⇒学級経営は「教授に対して隷属的地位」＝教授のための条件整備の機能を果たすものではなく、「**市民性育成**」や「**社会的・協同的訓育**」といった**訓育的な機能をこそ果たす独自の活動**とならなければならない
    - 教授活動と経営活動とを明確に区別し、学級経営が専ら経営活動を担うものとして考える点で宮坂と異なり、さらに独自に訓育機能を担うものとして学級経営を領域的に捉える点で宮田とも異なる

### 3. 「条件整備」的学級経営概念と学級事務

### 三つの学級経営観と学級事務

- 三つの立場にわたる学級事務についての論点
  - 学級経営の主要なファクターに学級事務を含めるか否か
    - ＝**学級事務をどう学級経営(教育実践)に位置づけるか、あるいは結びつけるか**
- 「学級経営・機能論」
  - 学級事務を**条件整備として捉える見方につながるもの**であり、多くの実践家の感覚に近いものと考えられる
  - しかし杉山や岡崎が指摘していたように、**学級事務を副次的な条件整備として捉えるにとどめると、多忙感や負担感を呼び込みかねない**
  - 学級事務を指導に結びつけて見ていたとしても、実質的には二元論を招くことになる

### 学級事務は「条件整備」にとどまるか

- ▶ 「学級経営＝学級教育論」  
& 「学級経営＝経営主体活動論」からの示唆
- ▶ いずれもある面では学級経営を教師による「指導」そのものとして捉えるもの
- ▶ 学級経営が広い意味での学習につながったり、それ自体自治的活動として社会性・協同性を育んだりする  
例) 学級事務の一端を児童生徒に委ねる
- ▶ 学級事務を教育評価につなげる  
⇒ 学級事務を行うなかで児童生徒理解が深まり、それがひいては教師の自己研鑽にもつながってくることにもなる

### 学級事務は「条件整備」にとどまるか

- ▶ 「学級経営＝学級教育論」  
& 「学級経営＝経営主体活動論」からの示唆
- ▶ 一見指導に関係ない学級事務も、副次的な「雑務」などでは決してなく、**教師による指導そのものの一連の時系列を形成する主要な活動**である
- ▶ また、事務処理の合理化は**実践の能率を上げるための教師の探究的思考**につながるとも言える
- ⇒ こうなれば、**学級事務は単なる条件整備というよりも、それ自体がある意味での指導あるいは教育実践として見なされることになる**  
(ある意味であらゆる学級事務は「指導事務」でもある)

### 注：学級事務に関する宮田の記述

- ▶ 「学級教師には多くの学級事務がある。そして、学級に関する限り、その事務は学級担任によって処理されるのが普通である。学級事務はさまざまに複雑なものではないし、また、学級の教育内容に精通している教師でなければ能率的に処理できない性質のものが多いからである。**事務的に処理することによって児童の生活がよりよく理解されるということもあるのであって、このようであれば、学級事務は単なる事務でなくて教育指導あるいは教育評価という仕事になるのである。**このような考え方からすれば、学級事務は学級教師によってのみ効果的に処理されるものといえる」  
(宮田丈夫『学級教育』明治図書、1957年、p.251)

### 注：学級事務に関する宮田の記述

- ▶ 「とにかく、事務は教師の関与すべきものではない。教師の本務は子供の教育指導にあるとする態度は、この際改められなければならない。前にもふれたように、**教育内容に精通している者によってのみ、教育事務は合理的に処理されるし、また、教育事務そのものが一つの指導内容ともなるからである。**事務軽視の態度はこの際最も改められなければならない。しかし負担過重となった場合に分業的に仕事を分担するという考え方は十分に正しいのである。**教育指導と教育事務は元来一つのものだからである**」  
(宮田丈夫『学級教育』明治図書、1957年、p.25)

### cf. 学習権保障としての教育労働

- ▶ 柳原富雄・制度研『改訂新版 教育としての学校事務：子どもの学習発達保障のために』大月書店、2010年
- ▶ 「歴史的にも学習権は自ら発達する、しかも全面的に成長発達する権利としてとらえられており、私もそうだと思います。しかし、全面発達権もそれを実現する政策樹立・立法・制度・行政の全分野にわたる諸条件が確立しなければ絵に描いた餅にすぎず、単なる理念にとどまります。・・・教育を受ける権利の内実を『学習する権利』『**学習条件を要求する権利**』に分けて提起することを検討すべきではないかと思えます」(p.68)
- ▶ 「この子どもの要求権としての『学習権』を保障する仕事は**すべて教育労働**なのであり、その社会的な組織体が学校なのです。教育労働とは、単に教員の教授労働だけを指すべきではなく、教員以外の各職種の労働も『学習条件を要求する権利』保障にかかわる仕事であり、本質的に教育労働の一部なのであって、**教授労働を直接活動または基本活動とし、条件保障労働を『間接活動』または『補助労働』と見ることは、決定的に誤っているのです**」(p.89)

おわりに

## 本発表の結論

- ▶ **学級事務は雑務ではなく、それ自体れっきとした教育実践**  
⇒「教育も事務である」ではなく「事務も教育である」
- ▶ **いわゆる管理事務であっても教育そのものになりうる**
  - ▶ 表面的な態様として指導事務と管理事務に分けるとして、管理事務であっても**その管理を通して子どもを見る目が養われたり、子ども理解が深まったりする**  
※子ども理解は教育方法を構成する重要な要素のひとつ
  - ▶ この意味で、**学級事務はおおよそ教師の自己研鑽としての性格も持ちうる**  
⇒判決文別紙の「教材研究は、…自己研さんの側面も多分に含むものであるから、その実施の要否や方法、所要時間については、各教員の教育的観点からの自主的な判断にゆだねられているといわざるを得ない」という基準の危うさ？

## 本発表の意義について

- ▶ **〈教育実践としての学級事務〉という見方**
  - ▶ 学級事務を、個人的な雑務ではなくそれ自体主要な教育実践として捉えるならば、「チーム学校」の概念にも積極的に関わってくるだけに、いっそう教育事務としての連携・協働が課題として要求されるとも言える(教師が独力でできる学級事務には一定の限界があり、必然的に事務方と理念を共有し、連携することが求められるのではないか)
- ▶ **教育事務研究の対象としての学級事務**
  - ▶ 教育事務研究は主に管理職や学校事務職員による学校事務を主な焦点としてきたが、その範疇に学級事務ひいては学級経営的側面も含めることで、教育事務に関する議論を教師(および主として教師の実践を対象とする研究者)に開いていくことも期待される

## 本発表に残された課題について

- ▶ **文献の制約**
  - ▶ 学級事務についてひととおりまとまった記述をしているものを選んだ結果、時期的に古い文献が大半となった
  - ▶ 教育内容が増えると学級事務の内容も増える、という見方(佐古田、1961)を踏まえれば、少なくとも学級事務の内容面については当時に比べて大幅に変わっているものと考えられる(ICT関連、地域学校協働関連、……)
- ▶ **学級事務研究に特有の論点を析出するところまでは至れていない**
  - ▶ 学級事務研究は教育事務研究一般に解消されてしまうものなのか?(事務活動の主体の問題、教育課程論、……)
- ▶ **学級事務の分類基準の創出**
  - ▶ 本当の意味での「雑務」と見なせる「学級事務」の内容は？

## 引用・参考文献

- ▶ 大砂信一「学級事務の進め方」宮田丈夫編『講座「学級経営」3 学級経営の実践』明治図書、1967年、pp.255-284
- ▶ 岡崎公典「学級事務の諸問題」田原迫龍磨編著『現代学級経営の理論と実際』第一法規、1995年、pp.159-173
- ▶ 亀井浩明「教育活動としての学級事務」『児童心理』第45巻第5号、1991年、pp.122-127
- ▶ 斉藤文四郎・藤沢清「学級担任の職務に関する研究：学級事務を中心にして」『群馬県教育センター研究報告書』第42号、1975年、pp.15-24
- ▶ 佐古田好一「学級事務の問題」宮坂哲文編『現代学級経営1 学級経営の基本問題』明治図書、1961年、pp.67-95
- ▶ 佐々木渡「学級事務」学級経営事典編集委員会編『学級経営事典 小学校編』第一法規、1963年、pp.469-478
- ▶ 佐々木渡「学級事務の処理」学級経営事典編集委員会編『学級経営事典 中学校編』第一法規、1964年、pp.548-555
- ▶ 佐々木渡「学級事務の基本」宮田丈夫編『学級教育事典10 学級教師の事務』帝国地方行政学会、1972年、pp.15-27
- ▶ 下村哲夫『学年・学級の経営』第一法規、1982年
- ▶ 白松賢『学級経営の教科書』東洋館出版社、2017年
- ▶ 杉山正一「学級事務の性格と機能」飯田芳郎・奥田真丈・長島貞夫・宮田丈夫編『小学校学級経営事典』第一法規、1971年、pp.278-282
- ▶ 細谷俊夫『教育方法 第四版』岩波書店、1991年
- ▶ 松本敬・種市博治「学級事務の内容」宮田丈夫編『学級教育事典10 学級教師の事務』帝国地方行政学会、1972年、pp.29-41
- ▶ 宮坂哲文『学級経営入門』明治図書、1964年
- ▶ 宮田丈夫『学級教育：進路と方法』明治図書、1957年
- ▶ 宮田丈夫『新訂学級経営』金子書房、1970年
- ▶ 矢ヶ崎重夫「学級担任教師と学級事務」教育技術研究所編『中学校学級経営事典』小学館、1975年、pp.469-471
- ▶ 柳原富雄・制度研「改訂新版 教育としての学校事務：子どもの学習発達保障のために」大月書店、2010年